



The Clearing (クリアリング)

キュレーション: エコー・エシュン

会期: 2025年11月3日[月]– 12月26日[金]

アートウィーク東京 参加企画(11月5日–9日)

出展作家: ネンギ・オムク(Nengi Omuku)、ソラ・オルローデ(Sola Olulode)、オキキ・アキンフェ(Okiki Akinfe)、アーサー・ティモシー(Arthur Timothy)、クウェシ・ボッチウェイ(Kwesi Botchway)

東京・青山のスペースアンは、アフリカ系ディアスポラの現代アーティストによるグループ展「**The Clearing (クリアリング)**」を開催いたします。本展は、キュレーターで作家のエコー・エシュンが企画し、絵画を中心にブラック・コミュニティの記憶と想像力を探ります。

展覧会タイトル「The Clearing (開けた場所)」は、作家トニ・モリスンの小説『ビラヴド』に登場する、森の中にある特別な空間に由来します。そこはブラック・コミュニティの人々が集い、癒やし合い、愛を育み、外部の敵意ある視線から一時的に解放される場所。本展は、この「集うこと」を、単なる交流を超えた抵抗・回復・創造の行為として捉えています。

ネンギ・オムク、ソラ・オルローデ、オキキ・アキンフェ、アーサー・ティモシー、クウェシ・ボッチウェイらの作品を通して、ブラック・サブジェクティビティ(主体性)を「見せる／見せない」という対立構造から解放し、夢を見て、変化し、新しい世界とつながる広がりのある存在として描き出します。

静けさとケアに満ちた展示空間の中で、これまで見過ごされてきた感情や物語が少しずつ可視化され、ブラック・ライフの精神的・感情的な深みが浮かび上がります。

特別イベント

- 11月6日(木): エコー・エシュン トークセッション(会場: Space Un)
本展や現代美術におけるブラック・ディアスポラの表現、国際的なキュレーションの視点などについて語り合います。

キュレーターについて | エコー・エシュン(Ekow Eshun)

ロンドンを拠点に活動するキュレーター、作家、文化批評家。アフリカ系ディアスポラの歴史や文化、美術に関する国際的な展覧会や出版で知られ、バービカン・センター(ロンドン)、サーペンタイン・ギャラリー(ロンドン)、テート・ブリテン(ロンドン)など主要美術館で企画を手がける。著書に *In the Black Fantastic* (テート出版、2022年) などがあり、BBCや主要美術誌にも寄稿。人種、アイデンティティ、想像力をテーマに、現代美術と社会の接点を探求している。

展覧会概要

space Un
TOKYO

KLO Minami-Aoyama Building 1F, 2-4-9 Minami-Aoyama, Minato-ku, 107-0062, Tokyo, JAPAN

www.spaceUn.tokyo

IG: spaceUn.tokyo



- 会期:2025年11月3日[月]– 12月26日[金]
- 会場:Space Un(スペースアン)／東京都青山
- キュレーター:エコー・エシュン
- 出展作家:ネンギ・オムク、ソラ・オルローデ、オキキ・アキンフェ、アーサー・ティモシー、ク
ウエシ・ボッチウェイ
- アートウィーク東京 AWT(11月5日–9日)参加

space Un
TOKYO

KLO Minami-Aoyama Building 1F, 2-4-9 Minami-Aoyama, Minato-ku, 107-0062, Tokyo, JAPAN

www.spaceUn.tokyo

IG: spaceUn.tokyo